



☆最新発掘速報 1 小井川（こいかわ）遺跡（中央市布施） 木製の補強材が使用されたカマドを発見！

今年度の5月から8月まで新山梨環状道路の建設に伴い発掘調査が行われた中央市(旧田富町)布施地区にある小井川遺跡では、平安時代（9世紀後半）の竪穴住居跡が発見されました。この住居跡に設けられたカマドは粘土で作られていましたが、粘土の中には木の杭のようなものがカマドの両側に4本から5本ずつ打ち込まれていました。小井川遺跡周辺は地下水の水位が高く、水分を多く含む砂地の土の中に遺物が保存されていたために、1,000年以上前の木材も当時とあまり変わらない状態に保たれていました。カマドは石や粘土を使って火を焚く部分の覆いを作り、粘土を補強するために石や土器を使用することがありますが、おそらくこの木の杭も粘土の補強材として用いられたものと考えられます。カマドの補強材として木材を使用する例は珍しく、カマドを作る技術の新しい発見になりました。

今年度調査した地点は、調査区のほぼ全体が旧釜無川の流れてによって運ばれた砂礫に覆われていましたが、その下には竪穴住居跡の発見された平安時代の地表面が残っていました。平安時代には遺跡周辺に集落が広がっていたと考えられます。遺跡の東側では、昨年度実施した調査により中世の荘園「布施荘」の存在を示唆する戦国時代の大型建物跡が発見されました。布施荘は文献上では『中右記』の中で元永2（1119）年に現れています。今回の調査で平安時代の住居跡が発見されたことは、平安時代末期には成立していたとされる布施荘につながる集落がこの地に存在していたことを裏付ける貴重な資料となりました。



発見された竪穴住居跡のカマド



カマドに打ち込まれた木の杭

